

集団的自衛権、国内議論加速へ？ 利用されるオバマ氏の「お墨付き」？

「集団的自衛権の行使容認に向けた検討状況を説明し、オバマ米大統領から『歓迎し支持する』との立場が示された」

安倍首相は24日、日米首脳会談直後に行った共同記者会見で、笑顔を見せた。首相はオバマ氏との会談の成果を追い風に、集団的自衛権行使を容認する憲法解釈に向けて、政府・与党内の調整・説得を加速化させる構えだ。これは24日付けの産経ニュースに配信されている記事です。しかし、今回のオバマ氏の発言が早くから準備されていたことは紛れもない事実なのです。

あらかじめ調整された「お墨付き」

実際、首脳会談に先立ち、5～7日に来日したヘーゲル米国防長官は、日本の取り組みについて「歓迎し、努力を奨励し支持する」と評価しているのです。昨年10月の外務・防衛閣僚による日米安全保障協議委員会（2プラス2）の「歓迎」よりも踏み込んでいる。今回オバマ氏がどう表現するのかが、早くからポイントの一つになるといわれていました。

集団的自衛権の限定容認は詭弁だ！

安倍首相は、最近になって限定容認論なる詭弁を持ち出して、党内の慎重派を押さえ込んできています。だがその事例の大半が個別自衛権の範囲内で対応出来る事柄だともいわれています。なぜそうまでして、集団的自衛権に固執するのか？ それは、集団的自衛権の全面行使への突破口を開くことになるからに他なりません。ともあれ党内を押さえ込むことには成功したが、世論の支持を得るところまでには至っていませんでした。

先月末の毎日新聞調査では、集団的自衛権の行使に賛成37%に対して反対は57%。それを憲法解釈の変更によって実現しようとする安倍首相には賛成がわずか30%で、反対は64%に達しています。内閣支持層でも解釈改憲反対は53%、しかもこの世論は日増しに強まっています。これを一挙に挽回するために演出されたのが、今回の日米首脳会談ではないでしょうか？ オバマ氏は「日本の施政下にある領域（尖閣）に日米安全保障条約が適用される」と言ってくれた。だからアメリカが「歓迎し支持する」集団的自衛権行使についても応じるべきである。このような議論が巻き起こるのではないだろうか？ 誤魔化されてはいけません。オバマ氏は日米安全保障条約については、従来からの立場を述べているだけであるし、尖閣については平和的解決を強く求めているのである。集団的自衛権の行使は国際公約ではない、日本国民が選択すべき事柄なのです。